

令和3年度 第1回 近江八幡市男女共同参画審議会【書面開催】 (報告)

令和3年度 第1回 近江八幡市男女共同参画審議会は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から書面にて開催し、以下の議案について決議を諮りましたので、報告いたします。

1. 回答状況(書面決議書提出数)

10名中10名の回答

2. 議題

(1) 会長・副会長の選任について、事務局案を

「承認する」・・・10名

「承認しない」・・・0名

3. 審議事項

(1) 令和3年度 委員会・審議会等への女性の参画状況について

	意見	回答
1	ワーク・ライフ・バランスを考えた時に、もちろん委員会等への女性の参画は重要ですが、一方で男性の家事・育児の分担も必要と考えます。 育休のあり方が大きく変わる今、新しい視点も大切にしていきたいと思えます。	女性の社会進出が進む中、依然として家事や育児における女性の負担が大きい状況が続いています。ご意見のとおり、女性の参画を無理やり推し進めるのではなく、男性の家事や育児の分担など、まずは、女性が参画するための土台作りが必要であると考えます。審議会委員の皆様にもご意見を頂きながら、市として取組を進めてまいります。
2	団体推薦の現状については、一任ということから増加につながらないことがやはり大きいかもしれません。協力を求めていくという(引継ぎを含めて)取組は必要だと思えます。	ご意見のとおり、団体推薦による委員選出の女性割合が少ないのは、一任が理由の一つとして考えられます。また、推薦依頼先である団体そのものに女性が少ないということも理由として考えられます。 引き続き、女性の選出について協力を求めるとともに、推薦依頼先についても検討する必要があると考えます。

3	<p>女性の登用率が下がっている状況は、男女共同参画の観点からすると望ましいとはいえない。</p> <p>専門性が高い分野だからというのは、理由としての妥当性に乏しいと思う。例えば、まちづくりや老人ホーム関連は、女性でも取り組んでいる人はいるのではないか。</p> <p>団体推薦については、引き続き、協力を求める必要がある。</p>	<p>引き続き、専門分野を狭義でとらえず、広い視点から、女性の専門家の発掘に努めてまいります。</p> <p>団体推薦については、引き続き、協力を求めてまいります。</p>
4	<p>女性の登用を加速させるには、そこにある弊害を抽出し、各団体の方々に可能な限りご対応をしていただくのが良いと感じています。特に女性ゼロの団体の方々には、意識し参加しやすい状況をつくっていただくには？を主体的に考えていただく場をつくってはいかがでしょうか。</p> <p>また、家事や育児で参加できにくい際にリモートも活用すれば、ハードルが下がると思いますので、最初は慣れないですが少しずつチャレンジくださるのも良いと思います。</p>	<p>ご意見のとおり、各団体の方に女性の参画について、押し付けるのではなく、自分達で主体的に考えてもらうことができるような方法を検討いたします。</p> <p>また、オンライン会議の積極的な活用なども、提案いたします。</p>
5	<p>委員会・審議会等への女性参画について今後の比率についての予想はできますか。</p>	<p>数年間は大きな変化は無く、ゆるやかに増減を繰り返すと思われます。ただ、女性の社会進出に向けて、男性の育児休業の取得など性別による固定的な役割分担の解消への取組が行われていることから、将来的には、女性の活躍の場が広まり、委員会・審議会等への女性参画についても増加すると予想しております。</p>
6	<p>以前よりも、委員会・審議会等への女性参画状況が下がっているのは、女性の就労の増加や育休復職の増加が理由かもしれないと感じました。</p> <p>社会に活躍の場があるのはとてもよいことだと感じますが、意見を伝える場へ参加できているかは別のよう思います。開催時間や方</p>	<p>ご意見のとおり、意見を伝える場への女性の参画については、本市も含め全国的に少ない状況にあります。委員会や審議会等だけではなく、様々な場において、意見を伝えることができる仕組みづくりも必要であると考えます。</p>

	<p>法、職場の理解があつてこそ参画できるのかと思ひました。</p>	
7	<p>委員会等の性格(内容や委員に求められる資格等)にもよると思ひますが、10人以上の委員の中で0人というのは少し不自然な気がします。また、単に女性委員の人数にこだわるとはなく、中身(質)にもこだわっていきたい。なぜ女性が少ないのかは、学識経験者、団体推薦などにあがつてこない女性自体が今だに家事・雑事にとらわれて社会に出られない現実があると思ひます。</p>	<p>引き続き、女性の登用率増加に向けて、各種団体等へ働きかけを行います。意見1における回答と同様になりますが、まずは、女性が参画できるような土台作りに努めてまいります。</p>
8	<p>市役所における管理職の在職状況の内、一般行政職になると大きく%が下がるのが気になります。</p>	<p>市役所における管理職在職状況全体における女性数には、比較的女性の多い職場である幼稚園や保育所職員、病院職員が含まれているため、一般行政職のみの女性数になると、女性の割合が大きく下がったという結果となっています。</p> <p>ただ、一般行政職における女性の管理職割合はかなり低い水準であることも事実であるため、今後増加に向けての取組が必要であると思ひます。</p>